

平成29年8月4日

大和高田市新庁舎建設基本構想（案）に対する意見募集（パブリックコメント）結果について

大和高田市 財務部 庁舎建設準備室

大和高田市新庁舎建設基本構想を策定するに当たり、案を公表し、意見募集（パブリックコメント）を実施しました。  
その結果及び提出されたご意見とこれに対する市の考え方を整理しました。

(1) 意見募集期間

平成29年7月5日（水）～平成29年7月25日（火）

(2) 提出方法別の提出人数及び意見数

提出方法	提出人数（人）	意見件数（件）
直接持参	1	1
郵送	0	0
Eメール	1	3
合計	2	4

(3) ご意見とこれに対する市の考え方

次ページ以降に記載しています。

ご意見とこれに対する市の考え方

No.	項目	ご意見	市の考え方
1	3章 庁舎整備の基本方針	<p>施設の老朽化に加えて耐震性能の不足は、市民の防災拠点としての危機管理機能を果たすことが不可能なため、早急な改善が必要です。</p> <p>庁舎の狭隘化、障害、業務の非効率性は、市民サービスの低下につながるため、時代の要請に応じて将来を見通した華美ではない余裕ある施設がふさわしいと思います。</p>	<p>施設計画については、今回策定する「新庁舎建設基本構想」の「基本理念・基本方針」に沿って、将来においても市民を支える安心安全な庁舎となるよう、また、デザインに関しては華美なデザインを避け、便利で快適な機能を重視した庁舎となるよう、引き続き検討を重ね、「新庁舎建設基本計画」を策定（平成30年3月中）する中で明確にし、早期に、設計・建設へとつなげていきたいと考えております。</p>
2	3章 庁舎整備の基本方針	<p>新庁舎の市民便利機能としては1階になるべくゆとりあるエントランスを設け、最上階の南側は高田川・大中公園・横大路が見渡せるガラス張りとし、市民・職員が共用利用できる廉価なカフェテラス（食堂）を設置できれば良いと思います。</p>	<p>上記No.1と同様、ご意見を参考にしながら、市民利便機能についても、引き続き検討していきます。</p> <p>なお、基本計画の策定の際にもパブリックコメントを実施し、また、基本設計案ができましたら、市民の皆さまへの説明会を開催するなど情報を発信していきます。</p>
3	5章 新庁舎の建設位置	<p>旧高田総合庁舎跡地に建設の場合、周辺道路の拡幅整備も必要と考えます。</p> <p>また、北東に隣接する大字有井の下池について、シビックコア周辺地区まちづくりの市民ワークショップでは、現在灌漑機能を果たしていないと指摘されていますが、防火用水機能を持たせた雨水貯留施設として活かすべきです。この池は、1934（昭和8）年の発掘調査で池底から弥生時代中期～後期の土器等が出土した有井遺跡を確認した地点でもあります。</p> <p>このことを顕彰し、下池周囲に安全柵・遊歩道・休憩施設（ベンチ・四阿）を整備して遊水池としての景観を維持すれば、新庁舎～有井下池～有井環濠（弘法井戸・正行寺）～築山古墳群～福祉センター（さくら荘）に至</p>	<p>旧高田総合庁舎跡地に建設する場合、当該敷地に面する道路（北・東・南の3面）については、今後、車の動線を考慮した最適な計画を検討していきます。</p> <p>また、周辺道路の整備や大字有井の下池についての今後の整備につきましては、奈良県と大和高田市が協働でまちづくりを推進していくための「まちづくりに関する包括協定」における、「シビックコア周辺地区」のまちづくりにおいて、地元や意見交換会、市民ワークショップを開催しながら、ご意見いただいた内容も参考にさせていただき、「シビックコア周辺地区まちづくり基本計画」の検討と策定（平成30年3月末予定）に取り組んでいきたいと考えております。</p>

		<p>る、新庁舎北側からの観光事業にも有効です。</p>	
<p>4</p>	<p>5章 新庁舎の建設位置</p>	<p>駐車を広く確保されることに異論はありません。</p> <p>しかし、今後高齢化がますます進み、運転免許証の返納が増えることが予想されます。その場合、交通機関と新庁舎のアクセスとして、コミュニティバスの利用促進が不可欠となりますが、現在の路線編成では、市役所に行って帰るには、バスの便が悪く、一日仕事になる地域もあり、行きたい時間に市役所に出向くことができません。</p> <p>よって、コミュニティバスの利便性の向上を図ってほしいです。</p> <p>その案の一つとして、近隣市町のように、環状線に通常のバスを走らせ、乗り継ぎポイントを作り、そこへそれ以外の地域から小型バス（ワゴン車等）を複数本走らせるといった路線編成に改編し、市役所へのアクセスの利便性を向上させてほしいです。</p> <p>これにより、現在市庁舎の前面道路において、朝夕の時間帯をはじめとした交通渋滞の緩和を図ることもできると考えます。</p>	<p>現在、大和高田市コミュニティバス「きぼう号」は、平成28年4月に大きく再編を行い、3路線6系統を3台のバスで運行しております。その中で、市内中心部の主要なバス停である市民交流センター・近鉄大和高田駅・近鉄高田市駅・JR高田駅西口・市立病院・市役所及び利用者が多いさくら荘については、全てのバスが停車します。従いまして、市役所（東向き・西向き合わせて）には、1日に18便が停車しております。</p> <p>ご提案いただきました環状線及び小型バスを複数運行する形態について、懸念される事案としまして、次の2点があります。</p> <p>一つ目はコストの問題です。小型バスを複数走らせるとのご提案についてですが、実際のところ運行費用の大半が人件費であり、また、小型の車両は耐久年数が短く車両入替えのサイクルも短くなります。</p> <p>二つ目はバスの乗り換えです。ご指摘のとおり、今後高齢化が進み運転免許証の返納が増えることが予想されます。現在も、バスの利用者の多くが60才代以上のご高齢の方となっております。環状線運行及び小型車両の接続（乗り継ぎ）運行となると、どうしても市内中心部の主要施設等へ行くためには、乗り継ぎが必要となります。目的地へは、効率よく短時間で行けるようになるかもしれませんが、ご高齢の方からは「乗り継ぎが分からない。」等の意見をいただいております。現在の運行形態のように市内中心部の主要施設へは乗り換えなしに行けるというのは、ご高齢の方にやさしい運行内容だと考えております。</p> <p>今後ともご利用者等からのご意見、利用状況を見定めて、より良い運行を目指していきたいと考えております。</p>